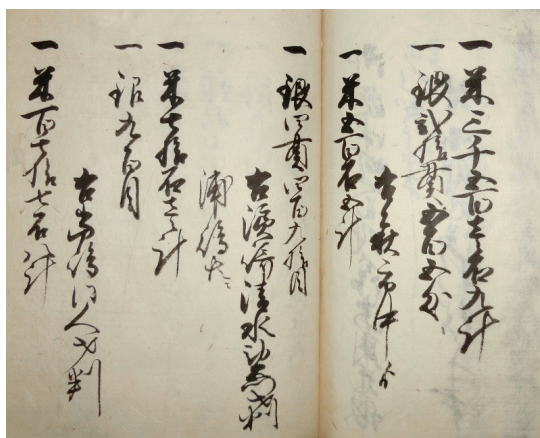


人
集まる
モノ
集める
記録・記憶
と
文書館資料

⇒ 3



- 一、米三千五百石九斗
- 一、銀貳拾貫五百五匁
- 右萩市中左
- 一、米五百石五斗
- 一、銀四貫四百九拾目
- 右浜崎清水勘衛門才判
- 浦・島共ニ
- 一、米七拾石老斗
- 一、銀九百目
- 右当島同人才判
- 一、米百七拾七石八斗

上利根川御普請御手伝一事記録十より（毛利家文庫42御勤事22（16の10））

「普請」で集まる人と物

～寛保の利根川普請と萩藩～（2）

《普請に出る人々》

引き続き「上利根川御普請御手伝一事記録」（毛利家文庫42御勤事22）から、寛保2年（1742）に幕命により萩藩が行った利根川普請を紹介します。

萩藩の担当場所は、現在の埼玉県深谷市から行田市、宮代町に至る利根川とその支流です。決して狭い範囲ではありませんでした。

それではその範囲の普請事業にどのくらいの人々が従事したのでしょうか。ここで取り上げている資料からは、実際に出た人数はわかりません。しかし、ひとりあたりに支払う賃金を基に算出した支出総額から人数の凡そは窺えます。それによれば、「出人足」は89万1千人余、「上人足」は2万9千人余が出た計算です（裏面【表1】参照）。

また「老幼男女」も7万7千人余とあります。これは今回の利根川普請は被害を受けた河川沿いの人々への救済も兼ねていたことから、年齢・性別を問わず広く近隣住民に募集をかけていたことによります。「土持桶数」の記載は、普請事業の中で土を運んだ場合に支払われる賃金と考えられます。

これら諸々を合計すると、8万4千貫文余と、莫大な支出がありました（実際に計算すると、総計として挙がっている額より8文少なくなっています。写し間違いか、計算間違いか。原因は不明です）。

《膨大な支出》

これまで示したものは銭での支出分で、銀での支出分も別にありました。

裏面【表2】がそれを一覧にしたものです。こちらは御普請所の人足賃や竹木の



関東筋川普請各藩分担図（毛利家文庫58絵図65）

利根川をはじめとする関東の河川普請に関する各藩の分担図。地域ごとに藩主名が貼られています。

この図は後年の天明6年（1786）のもですが、今回取り上げた寛保2年時にも類似のものが作られたことでしょう。

人 ③

運送代等に1,700貫余、筆・墨・紙・蠟燭代等に116貫余、炭・油代等に28貫余、祈祷料等に155貫余、家臣への報償費に103貫余、家臣の出張に伴う諸費用や風呂焚き代・馬の飼料代などで481貫余、家臣の赴任手当などに300貫余、合計で2,984貫余の経費となっています。

こうした莫大な出費にあたり、萩内の商人と百姓から米と銀の献上が行われました。献納に応じた人員は、萩市中は447人、各宰判は総計で1,526人だったそうで、その総額は、米は7,900石余、銀で135貫余とのことでした。ここにも、人々による力の結集の結果が数字として残っています（前ページの写真は、萩市中と浜崎・当島宰判分です。各地で挙げられた数値を実際に合計すると、総計で4石5斗不足しています）。

《文書をまとめ、集めて保管》

命を受けてから事業を完了するまでの約半年間、様々

【表4】作成文書・記録一覧

文書・記録	点数
御普請仕様帳	10冊
御普請御場所絵図	1枚
御代官方被相渡候御普請御勘定御清帳下書	8冊
御勘定所江差出候御普請一事御勘定御清帳写	8冊
公儀御入用之諸色代永請負人請取証文七拾四通継立	一括り
御用之諸色運送永銭御手伝方方払方相成請負人・請負証文七拾五通継立	一括り
御普請所之内村々江切渡賃銭名主請取証文継立	一括
元小屋場跡地引渡相成名主受取証文	1通
同跡地切返し地代其外名主地主請取証文	1通
御代官石原半右衛門殿印鑑	1枚
御普請役并御代官手代印鑑帳	1冊
此御方諸色奉行印鑑帳控	1冊

【表2】銀払経費一覧

支出額	支出項目
御普請所人足賃銭并御用之竹木其外諸色運送賃、且又元小屋御会所其外諸所小屋掛一卷以入用之分	1,797貫523匁7分2厘
御会所其外諸御道具調代御用紙墨筆蠟燭其外小々御買物代并小玉銀両替之歩銀御道具持運び賃ともに	116貫678匁5分1厘
御手伝二付、御客并御普請役衆御代官手代其外賄料炭油代、扱又於御普請所寒風之節出人足共江粥湯御吞せ被成候代共二	28貫760匁3分8厘
御手伝一卷諸御勤金銀并御普請所御用達候名主組頭百姓共二被遣金銭且御祈祷料共二	155貫713匁5分2厘
御普請成就之上、為御賞美懸り之御家来中拝領被仰付、金銀巻物其外并於御場所小々被遣金銀御国方江戸方大坂役人江拝領被仰付候分共二	103貫267匁1厘
御手伝二付被差登候御家来中御扶持方米代御場所入込最初旅宿被差置候旅籠代御丁場入替り之節并見廻り被仰付候路料旅籠代昼飯代足輕以下定ル御勘渡銀飛脚路料刀差當仲人御抱給金飯料諸日用賃銀、且元小屋ニおみて湯風呂御焚せ候代金御貸馬買代飼料馬具調代、扱又御家来御賃金銀共二	481貫995匁5分7厘
御手伝懸り諸士中旅役銀として御勘渡之分	300貫111匁5分7厘
合計	2,984貫50匁2分8厘

な文書が作成されたことは想像できます。そうした文書はそれぞれまとめられ、ひとつに集められて保管されました。【表4】がそれを一覧にしたものです。勘定書、図面、各種証文類など、多様な文書があったことが窺えます。

【表1】銭払普請費用

項目	人数等	金額
出人足	891,892人3分	7,432貫356文
上人足	29,174人6分	4,376貫338文
老幼男女	77,730人	2,135貫314文
同土持桶数	60,795.0	1,242貫553文
名主宰料	13,898人5分	2,084貫772文
	合計	84,163貫333文

【表3】萩藩領からの献上米銀

献納地	献納品	
	米	銀
萩市中	3,501石9斗	20貫505匁
浜崎	500石5斗	4貫490匁
当島	70石1斗	900匁
奥阿武	177石8斗	6貫400匁
前大津	100石	16貫800匁
先大津	200石	12貫目
美祢	287石6斗	
吉田		14貫300匁
船木	558石	9貫798匁
小郡	650石	
山口町		30貫目
山口	218石7斗	1貫目
三田尻町	204石5斗	
三田尻	230石	
徳地	300石	
都濃	370石	
熊毛	235石8斗	6貫500匁
大島		13貫匁
上関	300石	
合計	7,909石4斗	135貫693匁